

第1、 近況、雑感

1. 3月は年度末。国の予算すら決められない慌ただしさ、新政権への期待は薄い。トランプ劇場に、第三次オイルショックが加わり、世界経済はまた一つ苦難を加えて、当分苦しむだろう。
2. かつてのオイルショックのとき、メキシコ湾での食品イカを独占して捕獲する漁業権を手にした会社を手伝ったが、イカが多すぎて日本式の仕掛けでは一匹も獲れず失敗。補填の一部にとガソリンをリッター10円で苦小牧沖まで運んだが、荷揚げに苦労しその会社は倒産、社長が自害して END。苦く忘れられないオイルショックの思い出。
3. 今月はあの3.11から15年。あの日は東京の文京区千駄木の有名な中華料理店のあるペンシルビル6階の当社営業所で午後の面談客との打ち合わせ準備をしていたが、寝起き際に母の夢を見たことで急に札幌に帰りたくなり、ANAの客となったことであの事故を逃れ、命拾いをした記憶が強烈に残っている。借用中のビルは業務停止で使用不能。3月にはもう一つ、30年前の3月20日の地下鉄サリン事件。この年の6月にシマニシ科研の社長就任直前の出来事だが、まだ東京に赴任しておらず、被害者にならずにすんだが、あれから30年、<MINERA21>の歴史の始まりとなった年、間もなく90歳になるのも至極当然なのだ。
4. 原発さえなければ、あれほどの大事故にならず、復旧ももっと進んでいただろうとは誰もが言うとおりで、東京電力はこの15年間責任逃ればかりしていて、デブリをわずか9.9グラム(10億分の1)取り出しただけで、これからどうするのか。事故処理には23兆円以上かかるそうだが、最早支払いできる金額ではない。認可した国の責任というのはどうなのか。発電を間もなく再開する泊3号機だけでなく、放射能が安全レベルに下がるまで10万年かかることが分かっている、今回のオイルショックもあって、人類は更に盲目になるのを止めることはできないのか。
5. そんな先のことではなく、福島第一原発の周辺から追い出された住民は、進まぬ除染のために帰還困難が続き、望郷の思いで他所で死を迎えさせる国の無策に、他県の人もっと大声をあげるべきだ。
6. 原油の生産はできているのに、その配給手法でのオイルショック。誰が、何が悪くて、こんなことになるのか。物が十分にあるのに使えない苦しみ。石油はすべての産業の機動力。これなしには何も動かさないのは分かっているが、石油が発見されていない頃に戻って考えてみれば、最も大事なことは、あんな油などではなく、水と食料・きれいな空気さえあれば良いのだ。だが

今これを忘れた人間たちが、オイルショックを嘆いていて、時代の、人類の先を見ることを見失ってはいはしまいか。

7. 私の会社は50年、良い水を必要とする人に供給することを社是として細々とやってきて、間もなく90歳。どれほど人間のためになったかは謎だが、健康のための水、美容のための水を必要とする方々のために、農業の手伝いもして、人間が生きる基本のところの手伝いをしてきたという自負があり、原油も大事だが生命の基本は《水》、良い水環境を求めている方には、中国であろうがアメリカであろうが届けるための努力をしたいと考えてはいるが、あと75日で90歳。この願いはどこまで届くのであろうか。

第2、 今月の報告文

- ・石油より「食料枯渇」に備えよ (2026.4 選択)
- 「備蓄軽視」怠慢農政の重い罪 -

第3、 今月の再読本

- ・ 「土」 土と人、手わざが会うところ
(エルメス財団 編、2023.8.30、岩波書房 2,700 円)
- ・ 「土と脂」 微生物が回すフードシステム
(デイビッド・モントゴメリー+アン・ビクレー、2024.9.6、築地書館 3,200 円)
- ・ 「ルポ 薬漬け」 医療とビジネスの罟
(山岡淳一郎、2025.5.30、地平社 1,800 円)
- ・ 「フッ素の社会史」 フッ素-その害毒、戦争、環境破壊の歴史
(天笠啓祐、2025.6.27、地平社 2,000 円)
- ・ 「不夜脳」 脳がほしがると本当の休息
(東島威史、2025.9.25、サンマーク出版 1,500 円)

第4、 今月のことば

- 痛手の先に立つのは驕り。つまづきに先立つのは高慢な霊。(旧約聖書)
- 歴史とは、我々が永遠に訂正し続ける過ちだ。(アンソニー・マラ)
- ねえ、農家の人たち DDTは今すぐ片づけて リンゴに染みがあってもいいけど、鳥やハチを私に残して お願いだから！(ジョージ・オーウェル)

2026年3月31日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)